



飯坂温泉駅。福島交通飯坂線の終点であり、飯坂温泉の玄関。平成22（2010）年に和風な外観に改修された駅舎が湯の町への期待を高める。



福島県 福島交通

飯坂線

文・渋谷申博

text by Nobuhiro SHIBUYA

連載 第7回

民営鉄道の 起源を訪ねて

鉄路は何を目指したか



鉄路でたどる 『おくのほそ道』の旅

伝説によると、福島市はかつて湖であった。この湖に浮かんでいたのが、今も市街地の北にそびえている信夫山である。この島に風が強く吹きつけていたことから「吹く島」と呼ばれるようになり、やがて「福島」となったともいう。

信夫山は平安時代からこの地のシンボルで、歌枕にもなっている。福島交通飯坂線、通称「飯坂電車」（いい電）は、福島駅を出るとその西麓に沿って北へ向かう。

飯坂線は飯坂温泉へ行く旅客の輸送を主な目的として、大正13（1924）年に福島飯坂電気軌道が開業した。当時、福島―飯坂間が重要な交通路であったことは、明治45（1912）年に乗合自動車が開業を開始していることから分かる。明治20（1887）年に日本鉄道（現JR東北本線）が仙台まで延伸されたことにより、福島は上野から9時間ほどで行ける距離となり、東京から飯坂温泉を訪れる湯治客が急増したのだ。乗合自動車のほか乗合馬車や人力車も飯坂へ湯治客を運んでいた。

飯坂線の開業はこうした交通事情を一変させたのであるが、路線は今と若干異なっていた。開業時の起終点は、福島駅前の福島停留所から飯坂停留所（現・花水坂駅）までであった。駅と呼ばないのは路面電車として運行していたからだ。



松尾芭蕉像の背後に架かる十綱橋。大正4（1915）年に竣工した日本最古級の鋼アーチ橋。十綱という名前は、かつて10本の藤綱の上に板を載せた橋が架かっていたことに由来する。令和2（2020）年、国登録有形文化財に登録。

飯坂温泉駅前に立つ松尾芭蕉の像。芭蕉の医王寺・飯坂温泉をめぐる旅は飯坂線とほぼ重なっている。

飯坂温泉の中心部に鎮座する鯖湖神社。かつて飯坂温泉は鯖湖湯（佐波子湯）と呼ばれ、伝説ではヤマトタケルもこの湯で病を癒やしたという。神社の背後に共同浴場の一つ鯖湖湯がある。芭蕉が泊まったのもこのあたりという。

信夫山



信夫山から望む福島市街地。信夫山は市街地の北側にそびえる周田約7kmの山岳。中央の羽黒山（標高260m）、西の羽山（標高275m）などいくつもの峰から成り立つ。

福島交通（飯坂線）路線図



波来湯。現在、飯坂温泉には鯖湖湯・十綱の湯・仙気の湯・切湯・導専の湯など九つの共同浴場がある。波来湯は1200年の歴史があるという。

信夫山の大鳥居。信夫山は市街地に隣接した里山であるが険しい場所も多く、かつては修験者の修行場であった。山中には羽黒神社・月山神社・湯殿山神社・月山神社などが鎮座する。



福島駅



JR福島駅と隣接し、改札口を阿武隈急行線と共有する。飯坂線と阿武隈急行線の車両が並んで見られることも。新型の1000系電車は車内に暖房がかり温泉気分を盛り上げてくれる。

医王寺



医王寺は天長3（826）年に弘法大師によって創建されたという古刹。薬師如来を本尊とすることから「鯖野のお薬師様」とも呼ばれた。松尾芭蕉は「おくのほそ道」の旅で当寺を訪れ、佐藤兄弟を偲び、袂を涙で濡らしたという。

福島交通株式会社

Fukushima Transportation, Inc.

創業 信達軌道株式会社/明治40（1907）年
飯坂線 福島-飯坂温泉（9.2km）
https://www.fukushima-koutu.co.jp/

飯坂温泉まで延伸されたのは昭和2（1927）年、福島駅に乗り入れるようになったのは昭和17（1942）年である。昭和20（1945）年には鉄道線として運行されるようになった。
福島飯坂電気軌道は、開業後、飯坂電車と改称、昭和2（1927）年には福島電気鉄道に併合された。昭和37（1962）年には現在の社名、福島交通となった。
飯坂線の開業より235年前、福島-飯坂間を歩いて旅した者があった。松尾芭蕉である。のちに『おくのほそ道』としてまとめられる旅で福島を訪れた芭蕉は、源義経を守って討ち死にした佐藤継信・忠信兄弟を偲ぶため、その墓がある医王寺（醫王寺）へと足を延ばした。そして、その夜は飯坂で温泉につかり、一泊した。
芭蕉が旅した頃、飯坂は鄙びた場所であったので、約200年後には東京から多くの湯治客が訪れるようになることは夢にも思わなかっただろう。飯坂線は飯坂温泉のさらなる発展に寄与してきたわけだが、時代の変化とともに担う役割も変わってきた。
昭和30年代後半から50年代にかけて飯坂線沿線も宅地や団地の開発が進んだ。それに伴い通勤・通学を目的とした乗客も急速に増えていった。上松川駅や桜水駅の開設は、そうした沿線住民の要望に応えたものであった。
飯坂線沿線は今後も変貌していくであろうが、信夫山は芭蕉が見た姿そのままであり続けるだろう。

しぶやのぶひろ

1960年、早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究者。『図解 はじめての神道と仏教』（ワン・パブリッシング）、『カラー版 神社に秘められた日本書紀の謎』（宝島社）、『聖地鉄道めぐり』（G.B.）、『眠れなくなるほど面白い 図解 神社』（日本文芸社）ほか著書多数。